

令和5年度 伊那市立長谷小学校評価表

学校関係者評価；(A：十分達成された B：ほぼ達成された C：不十分であった) 自己(項目間相対を加味した到達度)評価(a：十分達成された b：ほぼ達成された c：不十分であった)

| 学校教育目標 | 重点目標(中長期的目標) |
|----------------------------------|--|
| 輝け長谷っ子 ともに学び ともに育つ | 1 「わかる」「できる」「かかわる」授業の創造 2 自己肯定感・自己表現力・多様な価値観の育成 3 地域とともに学ぶ |
| | 今年度の重点目標 |
| | 考動力ー自分で考え、自分から取り組む |

| 総合評価 | | |
|---|--------|--|
| ○今年度は全学年で体育の授業を連学年で行った。ゲームに適した人数でゲームや試合をしたことにより、運動の特性に触れた楽しさを味わうことができた子が増え、「先生は分かりやすく教えてくれる」の項目がポイントが一番高かった。授業改善を引き続き大事にしていきたい。 ○新型コロナウイルスの感染法上の位置づけが5類になり、参観日や運動会・音楽会では、コロナ前のように来校を呼びかけたが、少なかった。地域とのつながりが強い地域なので、呼びかけの工夫をし、地域の方と学び、ふるさと長谷を愛する子どもを育てていきたい。 ○今年度は小中合同音楽会をはじめ開催したり、小中学校で育てる子ども像を小中の職員で話し合ったりした。小中連携がさらに進んだ。 | | |
| 成果と課題 | 評価 | 改善策・向上策 |
| (1)「わかる」「できる」「かかわる」授業の創造 連学年体育は好評だった。他教科の授業改善も進める。 | A a | ○「わかる授業」を本気で目指し、授業改善に努める。また、ICTの職員研修を行い、内容・形態の工夫・活用を進める。 |
| (2)自己肯定感・自己表現力・多様な価値観の育成 自己肯定感・自己有用感を高める指導力をさらに高めていく。 | B b | ○職員間の情報共有をさらに進め、相談機能をさらに高める。市のアンケート時期に合わせ、相談週間(仮称)を新設する。 |
| (3)地域とともに学ぶ 地域の方と共に学び、ふるさとを愛する心情を育てていく。 | B b | ○学年・学校・地区等、積極的に地区へ出て行く。従前の行事は、参加・参画しやすくなるように工夫・改善する。 |

| 領域 | 対象 | 評価項目 | 評価の観点 |
|------|----------------|---|--|
| 教育活動 | 教育課程 | ①学校目標達成に向けての教育課程の展開 | ○学校教育目標「輝け長谷っ子とともに学び ともに育つ」、重点目標「考動力ー自分で考え自ら取り組む」を意識した教育課程が展開できていたか。 |
| | | ②特色ある教育活動の展開 | ○地域・学校・学級・児童の特性を生かした教育活動ができていたか。(孝行猿学習、長谷っ子講座、米作り、御山や親水公園での活動 等) |
| | 学習指導 | ③「主体的・対話的で深い学び」を意識した協働的な学びの実践 | ○友と関わり合い、意見交換をして共に学びを深め合う場面を設定するなど、授業の工夫ができていたか。 ○「わかった・できた・深まった」等、児童が達成感を感じる授業ができたか。 |
| | | ④個に応じた学びの実践 | ○児童の育ちを把握し、次の指導に生かす評価ができたか。 ○個に応じた学び方を工夫していたか。 ○児童一人ひとりの考えを大切に豊かな心を育もうと取り組めたか。 |
| | 生徒指導 | ⑤児童理解に基づいた個々の児童への指導 | ○児童の気持ちを大切にできていたか。 ○児童理解にかかわる職員間の連携・対応はできていたか。 ・「全職員で全校児童を見る」ことが基本。 |
| | | ⑥児童の実態に基づいた適応指導 | ○いじめ防止や不登校に関わり、改善に向けた個別の指導につなげているか。 ・児童との対話やアンケート等の情報収集を行っているか。 |
| 学校運営 | 安全 | ⑦安全の確保 | ○事故や感染防止を重視し、安全指導がきめ細かになされ、安全の確保ができたか。 |
| | 地域との連携 | ⑧地域の素材・人材の活用と協力連携の構築 | ○地域の素材を生かしたり、保護者・地域の人々に参画してもらう授業や活動を行ったりして、地域とのつながりや協働の姿勢を大切に取組ができたか。 |
| | | ⑨教育活動実践の地域への発信 | ○ホームページや学校新聞、学級通信等により、学校の様子を地域や家庭に積極的に発信することができたか。 |
| 研修 | ⑩校内研究・研修の工夫・改善 | ○自己を高める意識を持ち、研修ができていたか。 ・小中連携職員の相互授業参観・公開授業、ICT(オンライン授業)研修 等 | |

| 成果と課題 | 評価 | 改善策・向上策 |
|---|--------|--|
| ○校長講話で毎回話題にしたり、担任が意識して子どもに任せたりした結果、担任に頼らず少しずつ自分たちで決めて行動する姿が見えてきた。教師主導が強ければ、子どもは受け身になってしまう。 ○コロナ禍前と同じような活動が戻ってきた。地域の方々に教わったり触れ合ったりして、地域のもの・こと・人から学ぶことができた。しかし、参観日等で来校される方はそれほど多くなかった。 | B b | ○子どもたちに任せるところは、担任は我慢して待ったり黙って見守ったりすること、失敗しても一緒に振り返って、再出発する等、年度当初に職員の意思統一を行う。 |
| ○今年度は、各担任が長谷中学校の教科担任とTTでの授業を行い、専門性のある授業から指導方法を学び、授業改善を図った。また、全学年で体育を連学年授業で行い、子どもたちも満足そうだった。 | A a | ○地域との関わりが強い学校なので、地域の方々の気持ちも大切にしながら行事等の計画を立てる。来校しやすいように、案内方法・内容等、工夫する。 |
| ○子どもたちも担任も iPad を使いこなせるようになり、授業の形態や内容にも幅が広がった。また、発言が苦手な児童にとっても、スクールタクトを使うことにより学習効果が上がる成果があった。 | B B | ○iPad をさらに活用し、全ての児童が「分かった」「できた」と実感できる授業を常に目指していく。互いの授業を見合ったり中学校とも連携し合ったりして、授業改善に努めていく。 |
| ○子どもたちも担任も iPad を使いこなせるようになり、授業の形態や内容にも幅が広がった。また、発言が苦手な児童にとっても、スクールタクトを使うことにより学習効果が上がる成果があった。 | B b | ○高学年を中心に iPad を自由に使いこなせるようになってきているので、低学年も慣れていくように、定期的に使う時間を確保していく。また、職員もさらにスキルアップを図って研修していく。 |
| ○児童の気持ちに寄り添い大切にしようと心掛けた。学年会等の冒頭で児童理解を丁寧に行い、職員間で情報共有を行った。しかし、児童の評価では、C・D評価があるので十分とは言えない。 | B b | ○引き続き職員間で児童理解の時間を確保して情報共有を行う。解決が容易でない事案は勿論のこと、一人で抱え込まずチームで解決に当たることや理解することを日常化する。 |
| ○いじめや不登校に関わる事案は常にアンテナを高くして情報収集に心掛けた。児童や保護者の気持ち・立場に寄り添い、複数の職員で対応したり不定期にケース会議を行ったりした。 | B b | ○配慮を要する児童は全職員で注意深く見守り、必要に応じて支援会議を開いたり SSW や SC との懇談や子ども相談員の助言をいただいたりしながら早期に対応を進めていく。 |
| ○1年生の下校でトラブルが続いたため、担任だけでなく校長・教頭も加わって下校指導を行った。少しずつ改善できている。 | A a | ○安全点検だけでなく、日頃から危険箇所がないか、雨・雷・雪・風等の気象状況にもアンテナを高くして対応していく。 |
| ○高齢者クラブの方との交流を主な目的として4年ぶりによもぎ採りを行った。読書の日には読み聞かせボランティアの方に10回、長谷っ子講座には地域の方に講師をお願いして5回行った。 | A a | ○コロナ禍の影響か、はじめて実施した小中合同音楽会や公開参観日には、地域の方の参観が少なかった。日頃から子どもたちと交流を増やす等、来校しやすいように工夫する。 |
| ○HPは月に1回程度更新した。学校新聞(学校だより)は毎月、子どもたちの活躍を写真を多く取り入れて発行した。 | A a | ○HPや学校新聞で、子どもたちの活躍を中心に紹介していく。抽象的な内容にならないように写真を多く活用する。 |
| ○長谷中学校職員と合同で小中9年間を見通した目指す子ども像について話し合った。また、親睦を深める目的でカレー作りを行った。常福寺住職の松田先生のお話を聞き教師としての資質を高めた。 | A a | ○長谷中学校とは小中連携をさらに深め、合同で行うと効果が上がることは今後も検討していく。職員のICT活用能力を高めるために校内の研修を積んでいく。 |

